

感染者急増の「第7波」対策

なりゆき任せでいいのか

「第7波」の大波

新型コロナウイルス感染者が急増しています。

7月後半から全国的にも感染者数は20万人を超えるという途方もない数とようになってきました。

本市の7月の感染者数は、下表に示しました。全国的傾向と同じく、7月下旬には3桁の数となり、7月29日には延べ感染者数が6000人を超えました。

年代別感染者数

連日のニュースは、感染者数が報道されるだけですが、県は、市町別の感染者と年代別数を発表しています。

それに基づき、袋井市の年代別感染者数・率を計算すると、7月分（25日まで）は右表のようになっています。

40歳代までの感染者が8割程度となっています。

	数(人)	率(%)
10歳未満	181	17.5
10歳代	167	16.2
20歳代	143	13.8
30歳代	166	16.1
40歳代	160	15.5
50歳代	78	7.5
60歳代	39	3.8
70歳代	27	2.6
80歳代	26	2.5
90歳代	22	2.1
100歳代	1	0.1
公表なし	24	2.3

そして、具体的には①ワクチン接種のお願い ②適切な受診のお願い ③会話や食事の際の適切なマスク着用のお願い ④自主的な不要不急の外出控えのお願い というものです。

これまでの対策と違う点は、「緊急性のある疾患の方が医療を速やかに受けられるように受診を控えて」ということです。医療体制の強化こそ必要なのに？

こんなに急増しているのに、これまでの対策がどうであったのか十分な検討がなされたのでしょうか。事例が多いのですから、これらの分析で要因や傾向が見えてくるはずです（例えば、高齢者施設でのクラスター感染経路やワクチンの感染防止効果など）。その上での対策が重要です。

感染症対策の基本は「早期の感染者発見と保護・隔離」です。改めて、その立場からの対応がなされなくてはなりません。

日本共産党の緊急要請

日本共産党国会議員団は、7月22日、政府に対し『「第7波」から国民の命を守るための緊急要請』を行いました。その基本的内容は、

- 1、発熱外来の体制、高齢者施設等での頻回検査、無料PCR検査を抜本的に強めること
- 2、医療全体の体制強化、臨時的医療施設・療養施設が機能するよう対策を講ずること
- 3、保健所の抜本的な機能強化を支援すること
- 4、ワクチン接種について、必要とする人への接種が円滑に進むよう対策をとること
- 5、空港検疫を抜本的に強化し、まともな水際対策を行うこと

6、なりゆきまかせの対応をあらため、BA.5系統への対策を明確に示すこと

の6点です。

対応策はこれでいいのか？

この急増に対して、国・県の対応はいいのでしょうか。

県は、7月28日、感染状況は「国評価レベル2（警戒を強化すべきレベル）」だが、医療提供体制は実質的に国評価レベル3（適切な医療を提供できなくなるレベル）同様の状況にあり、「医療ひっ迫警報」を発令しました。

<袋井市における7月の感染者数>

曜日	感染者数	曜日	感染者数	曜日	感染者数	曜日	感染者数	曜日	感染者数
1(金)	3	8(金)	14	15(金)	22	22(金)	368	29(金)	193
2(土)	6	9(土)	23	16(土)	43	23(土)	122	30(土)	164
3(日)	7	10(日)	20	17(日)	23	24(日)	69	31(日)	109
4(月)	0	11(月)	6	18(月)	6	25(月)	38		
5(火)	6	12(火)	31	19(火)	22	26(火)	159		
6(水)	17	13(水)	44	20(水)	30	27(水)	81		
7(木)	16	14(木)	24	21(木)	74	28(木)	141		

仕事・暮らし・コロナの悩み お気軽に相談を

世の中がわかり、希望が見える「**しんぶん赤旗**」のご購読を

(日刊紙 3497円 日曜版 930円)

<お申し込みは>

竹村真弓 (☎2-9317) まで